

2012年 3月 29日

各 位

株式会社 J M S  
代表取締役社長 奥窪 宏章  
(コード番号 7702 東証第1部)

## 再生医療に関する共同研究契約を建国大学(韓国)と締結

より安全な細胞培養液の共同研究を開始。

JMS製 血清採取用バッグ「CELLAID<sup>®</sup>」(Serum Collection Set)活用の更なる可能性を広げます。

株式会社JMS(本社:広島県広島市、代表取締役社長 奥窪宏章、以下「JMS」)は、学校法人建国大学校(大韓民国ソウル市、総長 キム・ジンギユ、以下「建国大学」)と、JMS製 血清採取用バッグ「CELLAID<sup>®</sup>」で分離した血清<sup>※</sup>を利用した、「新規細胞培養液の開発および関節軟骨再生効果の検討」に関する共同研究契約を締結しました。



血清採取用バッグ「CELLAID<sup>®</sup>」(Serum Collection Set)

※血清(けっせい):

血清とは、血液が凝固した時にできる血餅(けっぺい:赤血球・白血球・血小板からなる塊)より分離される淡黄色透明の液体。血液凝固の過程で活性化した血小板から放出される細胞増殖因子(特定の細胞の増殖や分化を促進するタンパク質で、成長因子、増殖因子とも呼ばれる)を多く含む。

### 【新規細胞培養液の開発】

再生医療では、採取した細胞を培養液で培養し増殖させたあと再び体に戻しますが、現在市販されている培養液の大部分には、細胞の栄養素となるビタミンやアミノ酸の他に、培養液のpHの変化を検知するためのpH指示薬やpH調節のための物質なども含まれています。また、培養液には細胞の増殖を図るための成分として血清が含まれることがありますが、現在、この血清には動物由来の血清が用いられています。

今回の研究は、滑膜・軟骨細胞の複合細胞移植体の開発など、細胞を利用した治療法の研究を行っている同大学 イ・ジョンイク教授の医生命科学科 再生医学研究室と、人の血液から血清を調製可能な血清採取用バッグ「CELLAID<sup>®</sup>」を持つJMSが共同で、臨床の現場でも使用し得る、より安全な細胞培養液の開発を目的としています。

【関節軟骨再生効果の検討】

人は歳を重ねるごとに、関節を保護している軟骨の磨耗または損傷などにより関節運動能力が減退し、同時に炎症や疼痛を発症するケースが多くなります。これは退行性関節炎と呼ばれ、特に膝の関節炎は歩行障害など慢性的な身体の障害を誘発し、人々の生活の質(QOL: Quality of life)を低下させる大きな要因になります。

今回の共同研究では、細胞を増殖させる作用がある「血清」を用いた軟骨細胞の再生効果について研究を行います。

【共同研究の概要】

- (1)研究テーマ: 「新規細胞培養液の開発および関節軟骨再生効果の検討」に関する共同研究  
(2)責任者: 医生命科学科 再生医学研究室  
SMART 医生命科学先端研究院 幹細胞研究センター  
教授 イ・ジョンイク  
(3)研究期間: 2012年4月1日 ~ 2015年3月31日 (3年間)

■建国大学 概要

学校名: 学校法人 建国大学校  
所在地: 大韓民国ソウル市広津区華陽洞  
代表者: 総長 キム・ジンギユ  
設立: 1946年  
在籍学生数: 23,793名 (2011年現在)

JMSは、これからも「感染・医療事故の防止」、「医療の効率化と患者さまQOLの向上」、「再生医療」の3つをキーワードに、一人ひとりの患者さまをみつめ、医療従事者の皆さまの立場にたって、安全・安心で品質の高い製品とサービスを提供し社会に貢献してまいります。

以上

問い合わせ先: 広島本社 経営企画部  
TEL 082-243-9059 / FAX 082-243-5997

本リリースに掲載されている将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、社会情勢の大きな変化などさまざまな潜在的风险や不確実性が含まれております。当情報につきましては発行日時点のものであり将来的に変更される可能性のあることをご承知おき下さい。